

せん ゆう でん  
先游伝 (重要美術品)

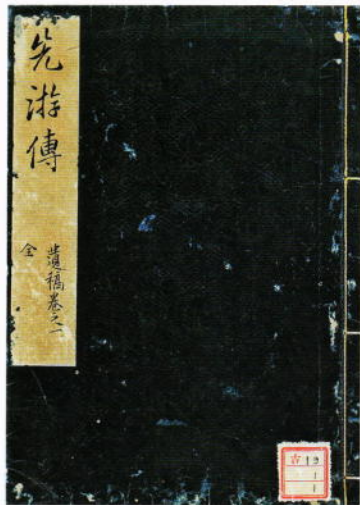
伊藤東涯自筆  
享保14年(1729) 1冊  
縦23.3cm 横16.4cm

本書は、江戸時代前期の儒学者、伊藤仁斎（一六二七～一七〇五）の門人録である。仁斎は朱子学的注釈を否定し、直接に『論語』『孟子』を読解して孔子本来の思想を解明する古義学という学説を唱道した。そして、価値ある道徳は日常的な人間関係（人倫日用）の中のみあり、人が生まれ持つ良心を充実させていけば、誰でも仁義礼智の徳に到達できると説いた。寛文二年（一六六二）に京都堀川に学塾「古義堂」を開き、多くの門弟を指導した。

著者の伊藤東涯は仁斎の長男で、古義堂二代塾主。本書は東涯が伊藤家子孫のために作製したもので、仁斎と親交の深い医師井上養白、有馬存庵などの知人や、北村篤所などの高弟ら七十九名の略伝を収録する。医師や富商に並んで、三河国の農民として菅谷太次兵衛の名が見え、上層農民にも仁斎の教えが受け入れられていたことが知られる。本書は仁斎の学問と教えを生涯にわたり信奉した人々について、東涯が自身の見聞に基いて筆録したものであり、元禄頃の古義堂関係者を知る上で最も信頼できる資料の一つである。

掲出書は伊藤東涯自筆本。享保九年（一七二四）に「先識伝」として起稿された本書は同十四年まで改訂増補され、同年に至り図版のように書名も「先游伝」と改められた。東涯の子で三代塾主の伊藤東所が装訂、編成した東涯遺稿集「紹述先生遺稿」のうちの一冊である。

（天理図書館 山根陸宏）



天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日(午前9時～午後5時半) 土・日・祝(午前9時～午後4時半)

○8月の休館日:6日～20日・31日

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)